

# 原発性肺癌に対するロボット支援下肺切除術の実施率

## ● 説明

原発性肺癌に対するロボット支援下肺葉切除術は2018年に、区域切除術は2020年に保険収載された新しい術式です。胸腔鏡手術に比べ緻密な鉗子操作が可能となり、胸腔内での器具の可動域が増えるため創部の痛みが軽減される傾向にあります。また、リンパ節郭清の郭清精密性も上昇しています。当院では、2018年より同術式を積極的に取り組んでおり、入院期間の短縮、術後疼痛の改善効果を認めております。

## ● 計算式

$$QI = \frac{\text{ロボット支援下肺切除術数}}{\text{原発性肺癌に対する全手術数}} \times 100$$

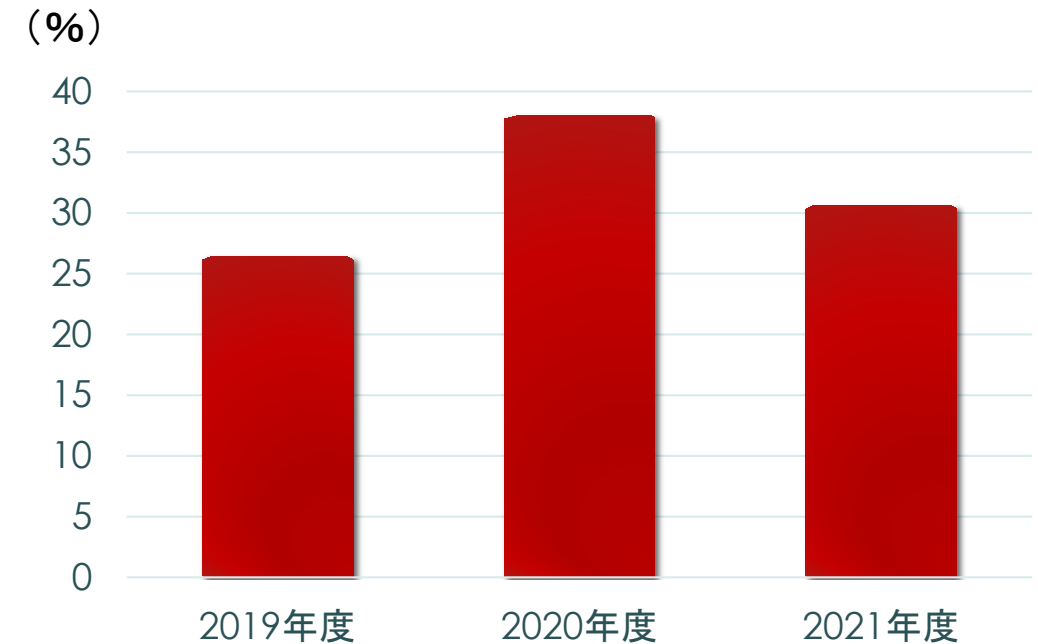
## ● 目標

ロボット支援下手術、胸腔鏡下手術、開胸手術それぞれに有利な点があります。患者さんの状況にあわせ安全なロボット手術を行っていくことを目標にしています。年間症例数の50%を目標にしています。

## ● 計画

ロボットの数が限られているため、急激な増加は難しいと考えています。全症例数の35%を次年度の目標としています。

## ● 実績



## ● 評価

ロボットの数が限られているため、急激な増加は難しいと考えています。全症例数の35%を次年度の目標としています。